

# コミュニティにおける子どもの栄養改善プロジェクト(第2期)

## 2025 年度報告書

(特定非営利活動法人) シェア＝国際保健協力市民の会

### <プロジェクト概要>

**地域:** プレアビア州4郡(クーレン/チェープ/ジェイサエン/サンコムトマイ)、25 コミューン(12 保健センター管轄区)

**直接対象者:** プレアビア州保健局、保健センタースタッフスタッフ、保健ボランティア(VHSG)、女性子ども委員会(PCWC/DCWC/CCWC)

**間接対象者:** 対象地域における5歳未満児(推定 15,581名)とその養育者 および妊産婦(推定 3,469)

**プロジェクト目標:** 対象地域の5歳未満児の子どもの栄養状態が改善される

### 【2025 年度の実績と成果】

活動地域において、5歳未満児の栄養状態改善を目指して実施する活動は以下の3つの柱に基づいて実施しています。

1. 「女性子ども委員会が子ども健康増進活動を管理できる」
2. 「妊産婦・養育者が適切な子どもの栄養行動が取れる」
3. 「低体重児のフォローアップが改善される」

2025年度は、既存介入地域であるチェープ郡およびジェイサエン郡においてエンドライン調査を実施し、成果と課題を確認しました。また、新規介入地域であるクーレン郡ではベースライン調査および関係者向けワークショップを実施し、活動開始に向けた準備を進めました。

チェープ郡およびジェイサエン郡では、女性子ども委員会の能力強化ワークショップや保健ボランティア研修を通じて、子どもの健康増進活動の定着と質の向上が見られました。特に、養育者の知識向上、母乳育児の定着、家庭衛生の改善といった行動面での成果が調査結果より確認されています。

一方で、子どもの栄養状態の改善については依然として課題が残っており、低体重や発育阻害の改善は限定的でした。また、妊婦健診の受診や食事の多様性確保にも引き続き対応が必要です。これは実質的な事業介入が約1年と短期間での調査でしたので成果に現われにくかったと分析しています。ベースライン調査ではクーレン郡においても、栄養状態の課題に加え、食事の多様性や養育者の理解不足が明らかとなりました。

活動の実施状況としては、乳幼児健診や離乳食教室などの子どもの健康増進活動が、対象コミュニティの約75～90%で定期的実施され、参加率も30～50%台を維持しています。また、保健ボランティア研修により、80～90%の参加者が必要な知識・技術を習得しました。

低体重児への対応では、保健センターとの連携により紹介・フォローアップ体制が機能しており、一定の回復が確認されています。また、栄養補完食(BP100)を活用したレシピ開発にも取り組み、地域での活用に向けた準備を進めました。

なお、7月以降に激化したカンボジア・タイ国境紛争の影響により、クーレン郡で予定していた一部研修および活動開始は延期となりましたが、全体としては概ね計画どおりに事業を実施できました。



保健ボランティアリフレresher研修：  
チェープ郡・ジェイサエン郡(10～11月)



離乳食教室(通年)